

式 辞

本日ここに、戦没者ご遺族の皆様ならびにご来賓の皆様のご参列を賜り、令和七年度松戸市戦没者追悼式を執り行うにあたり、市民を代表いたしまして、謹んで哀悼の誠を捧げ、式辞を申し上げます。

先の大戦において、祖国と家族を思い、厳しい戦地に赴かれ、酷寒や炎暑の中で尊い命を落とされた戦没者の方々、たび重なる空襲により犠牲となられた戦災犠牲者の皆様を思うとき、胸が締め付けられるような悲しみを覚えます。

最愛のご家族を失われたご遺族の皆様のご心痛を拝察するとき、いかなる言葉も慰めにはならないことを痛感いたします。

ご遺族の皆様が、困難と苦しみを乗り越え、今日まで歩んでこられたご努力に、深く敬意を表し、心から感謝を申し上げます。

戦没者諸霊の御前に立つ今、追悼の思いは一層深まるばかりです。

戦没者の方々が命をかけて守り抜かれた祖国は、ご

遺族をはじめとする国民一人ひとりのたゆまぬ努力により、平和国家としての歩みを続けております。

終戦から八十年を迎え、昭和から平成、令和へと時代の移ろいとともに、戦争を知らない世代が大多数を占めるようになり、体験や記憶が薄れゆくことが憂慮されております。私たちは、この悲惨な戦争の事実を受け継ぎ、次の世代に引き継いでいく責務を負っております。

世界に目を向ければ、各地で争いが絶えない状況が続いています。松戸市が「世界平和都市宣言」をしてから40年。戦没者諸霊が残された尊い教訓を深く心に刻み、再び悲しみの歴史を繰り返さぬよう、平和への誓いを新たにし、世界の恒久平和の実現に向けて、力を尽くしてまいります。

結びに、戦没者の御霊に永久の安らぎを、ご遺族の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念し、式辞といたします。

令和七年九月二十七日

松戸市長 松戸 隆政